決戦は水曜日

■成長を感じた一瞬

今週、水曜日の出来事です。７年生の子どもたちが、「給食委員会を立ち上げたい」という提案を行いました。今年度の委員会の中に給食に関わるものがなかったことに対して、「本当にそれでいいのか？」という疑問を持ち、自分たちで考え、行動を起こしたのは夢さんと想さんでした。実はこの二人、昨年度から給食委員会を立ち上げたいと声を上げ続けていた生徒です。委員会をつくるためには、理由が必要です。そして、周りを納得させるための説明も必要です。「どんな視点が必要か」「どんな伝え方なら伝わるか」――まさに、“みんなでつくるプレゼン”でした。

■短期集中！

月曜日に委員会の概要が説明され、そこから委員会決定まで２日間という短期決戦でした。提案を通すべく、放課後に残り準備を進めました。その動きを支えたのが仲間の存在です。菊地さんや野崎さんが中心となってサポートしてくれました。当日の朝の会で夢さん・想さんが前に立ち、クラスで最終確認を行いました。「ここはもっとこうした方がいい」「この言い方の方が伝わる」――出てくる言葉は批判ではなく、“より良くするための意見”でした。
そして本番。内容も伝え方も非常に分かりやすく、結果として提案は認められました。給食という視点を軸にしながら、購買と連携した新しい形の委員会としてスタートします。

■見えてきた「当事者の意識」

今回の出来事で見えたのは、子どもたちが「当事者」になってきているという姿です。与えられた枠の中で動くのではなく、「もっと良くしたい」と考え、自分たちで動く。これは、“出席者ではなく当事者へ”というこれまでの学びが形となって表れた瞬間でした。

■なぜ、この挑戦に価値があるのか

7-1は、全校の中でも特に完食率が高く、食に対する関心が高いクラスです。「美味しい」と言って食べるだけでなく、「もっとこうだったらいい」と考え、好き嫌いではなく「いろんなものを食べたい」という前向きな姿勢が見られます。実は、最初からこうだったわけではありません。少しずつ、子どもたち自身が雰囲気をつくってきた結果です。今では、パンが足りなくなるほどの“争奪戦”が起きることもあります。
だからこそ今回の挑戦は、単なる委員会づくりではなく、「与えられた環境を受け入れる側」から「自分たちで環境をつくる側」へと変わる一歩です。この経験には、大きな価値があります。

■挑戦が生む学び

私は、「挑戦しなければ、その先の学びは生まれない」と考えています。
今回の子どもたちは、結果だけでなく、そこに至るまでのプロセスを経験しました。どう伝えればいいか悩むこと、意見がぶつかること、時間が足りない中で考え抜くこと――この“迷い”こそが、学びの正体です。

■最後に

今回の出来事は、「自分たちでつくる学校」への第一歩でした。
この一歩を、次の一歩へ。ともに育てていけたらと思います。
プレゼンが終わった後の二人の表情には、大きな達成感と自信がにじんでいました。そしてクラスには、仲間の挑戦を認め合い、称え合う温かい空気が流れていました。

↓発表の様子の動画